

京都検定 公開テーマよもやま話

第26回

京都検定講演会講師による「よもやま話」。京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

第27回京都検定1級公開テーマ「昭和期の京都」

継承と変革に挑んだ昭和期の京都



山村 純也
株式会社らくたび
代表取締役

昭和期の京都は、伝統文化の継承と都市としての近代化が同時進行した時代で、昭和初期には都市インフラの整備や文化施設の拡充が進みます。昭和初期に武田五一の監修を受け、今年国登録有形文化財として登録された京都市役所本庁舎は昭和2年（1927）に完成。また、平安神宮大鳥居は、昭和3年に完成し、

京都の新たな

シンボルとして親しまれるようになりました。

戦時中は多くの伝統行事や祭礼が一時中断を余儀なくされましたが、祇園祭は昭和22年（1947）に長刀鉾が戦後

初めて巡行し、昭和31年（1956）には前祭の巡行ルートを変更、御池通に有料観覧席が設置される等、観光行事としての側面も強まります。葵祭では同じ昭和31年に斎王代を中心とした女人列が復興、時代祭でも昭和28年（1953）に華やかな女人行列が、昭和41年（1966）に維新志士列がそれぞれ加わり、伝統と歴史の再現が図られました。

都市空間の変化も著しく、昭和2年に中央卸売市場が日本ではじめて開設されたことで、流通面にも大きな変革がありました。昭和8年（1933）から昭和16年（1941）にかけて行われた巨椋池の干拓は、京都府最大の淡水湖を農地へと変貌させたことで都市近郊農業の発展を促しました。

昭和後期には、文化財保護の

意識も高まります。例えば昭和初期に建て替えられた小学校の校舎は名建築が多かったこともあり、ホテルや市民が利用できる文化施設として再生され、これらの建築物は、現代のリノベーションによる文化財活用事例として注目されています。また、戦時中の被害が少なかった京都の街中には、至る所に、「昭和レトロ」な近代建築や、商店街、喫茶店、町家が残っており、「京都モダン建築祭」で特別公開が行われる等希少性の高い歴史的建造物として脚光を浴びています。

こうして、昭和期の京都は、伝統と近代を融合させ、戦災による中断と再興を経て、歴史と伝統、観光で注目されている現代の京都の礎を築いた時代といえるでしょう。

※京都・観光文化検定試験®、「京都検定®」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。

第27回 京都検定の
申し込みを

8月18日(月)より

開始します！

試験日

2025年12月14日(日)

【3級】10時～

【2級・1級】13時30分～

試験会場

京都市内・東京都内の施設

試験級・受験料

【3級】3850円（団体3080円）

【2級】4950円（団体3960円）

【1級】7700円（団体6160円）

※団体割引については、1団体で10名以上の受験者となりまとめて申し込みいただくことが条件。

申込期間

【個人】8月18日(月)～10月30日(木)

【団体】8月18日(月)～10月16日(木)

公開テーマ

【3級】京都の松・竹・梅

【2級】京都の博物館・美術館

【1級】昭和期の京都



▲京都検定の詳細はこちらまたは

京都検定

検索

※京都検定では「公開テーマ」に関する問題が各級10問出題されます。